

市町村名	北谷町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	北谷町観光物産プロモーション		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部署名	建設経済部 観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度-令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	北谷町の知名度を一層向上させ、本町への観光客誘客推進と観光資源である地域特産品の効果的なピーアール及び販路拡大支援を図るため、県外等において、誘客プロモーション事業を展開する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,121	9,714	11,872	8,600	12,300
		(b) 予算現額	12,121	7,959	11,872	8,600	12,300
		(c) 増減額(b-a)	0	▲1,755	0	0	0
		(d) 繰越額	0			0	0
		A. 計(b+d)	12,121	7,959	11,872	8,600	12,300
	B. 執行済額		12,097	7,292	10,967	8,600	12,300
	うち交付金充当額		9,000	2,933	8,773	6,880	9,840
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.8%	91.6%	92.4%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初の計画のとおり、事業を執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	ニーズ調査及び受入環境調査の提案		目標	(提案)	()	()	()
			実績	提案完了			
	北谷町型ワーケーションの方向性の検討		目標	(検討)	()	()	()
			実績	検討完了			
	モデルプラン作成		目標	(作成)	()	()	()
			実績	作成完了			
	モニターツアーの計画		目標	(計画)	()	()	()
			実績	計画完了			
検討会議		目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査は109件、受入環境調査は宿泊施設22件、飲食店・カフェ24件、コワーキングスペース1件の回答があった。 ・北谷ワーケーションの方向性(コンセプト)として、絆を深めるワーケーションと定義した。 ・職場メンバー向けと親子向け(家族)へのアプローチが必須であると考え、職場型及び親子型モデルプランを作成した。 ・職場型モデルツアーはチームビルディング研修、親子型モデルツアーはまちなか留学を計画した。 ・町及び(一社)北谷ツーリズムデザイン・ラボとの検討会議を実施した。 					

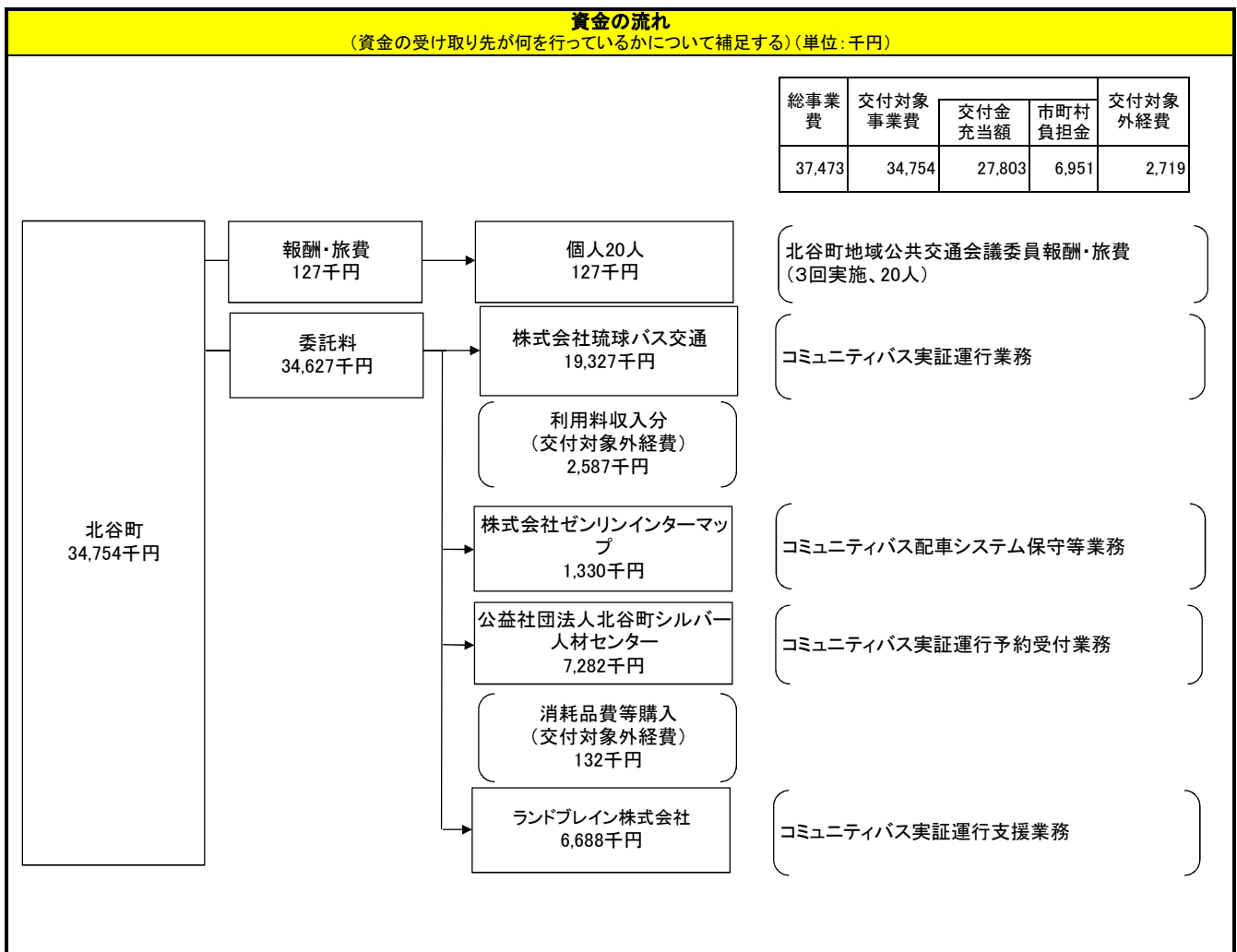
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)	
	モニターツアーの実施	目標	()	(実施)	()	()	()	
		実績		実施				
	プロモーションの実施	目標	()	(実施)	()	()	()	
		実績		実施				
	報告書の作成	目標	()	(作成)	()	()	()	
		実績		作成完了				
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 親子型モデルツアーは2回実施し16名参加、職場型モデルツアーは2回実施し13名参加、本町への再訪意欲は100%であった。 ワーケーション関連施設、ワーケーション体験談の情報を掲載するため、北谷日常サイトに新カテゴリを追加し、新たにページを作成した。 プレスリリース配信は58メディアに掲載され、掲載された各メディアでの露出効果について、合計14,282,698円の効果があった。 オンラインイベントの当日参加者は102名、Facebookには1,200以上のいいね！がついた。 Facebookの投稿数は16、総リーチ数は97,166、Instagramの投稿数は16、総リーチ数は74,709であり、投稿を効果的に宣伝・広告発信した。 ツーリズムEXPO2022ワーケーションエリアに北谷ブースを出展し、ブース来訪者数は2,670名であった。 ニーズ調査は109件、受入環境調査は47件、モデルツアー及びオンラインイベント参加者からのアンケート回答等、報告書を作成した。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ワーケーションをしたいというニーズが90%を超える中、実際にワーケーションに行ったことがある人の割合は約40%程度に留まり、企業制度がない事やセキュリティ、複数人で利用できるワーク環境があるか懸念されていた。 職場型研修は組織活性化にとっても有意義であるが、各社の求めている目的やゴールが異なるため、継続して実施いくことは難しいとの声を頂いた。 親子で行くワーケーションのニーズは年々高まってきているが、仕事中に子供を預けられる施設があるか不安に感じる方が多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本町を知らない方が未だ多いため、認知してもらい来訪してもらうためにはプロモーションが不可欠であるとともに、本町はワーケーションだけではなく、街並みや体験コンテンツ等、多くの魅力があるため、ワーケーションだけに特化せず、本町そのものの魅力が伝わる情報発信が必要である。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響によりインバウンドを対象としたプロモーション活動はまだ難しいため、国内需要の一つであるワーケーションの本町への取り組みを図ったが、令和4年6月から観光目的の新規入国が認められたことで、今後、訪日旅行の需要が高まることを見込まれるため、訪日旅行のリピーターが多く、本町への来訪者数が多い台湾に対して現地プロモーションを通じて、本町の情報発信を行い、観光客の誘致を図るとともに、本町ならではの特色あるコンテンツによるPRを強化する。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12,300</td> <td>12,300</td> <td>9,840</td> <td>2,460</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,300	12,300	9,840	2,460	0	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,300	12,300	9,840	2,460	0										
北谷町 12,300千円	委託料 12,300千円	ANAあきんど株式会社沖縄支店 12,300千円	北谷町観光物産プロモーション企画運営業務委託											
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、プロポーザル審査委員会で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当であったと考えている。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業の目的を達成するためには最小限必要不可欠なものであったことから、適正であったと判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北谷町							
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-②	コミュニティバス導入調査検討事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ウ			
担当部署名	総務部 企画財政課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	人と環境に優しいまちづくりの推進 Ⅲ-1-(1)			
事業内容	観光客や町内交通弱者の利便性・回遊性の向上を図るため、観光施設や商業施設等を周遊するコミュニティバスの実証運行を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	48,902	37,126	38,616	55,618	45,356	
		(b)予算現額	35,030	33,329	23,275	55,618	37,921	
		(c)増減額(b-a)	-13,872	-3,797	-15,341	0	-7,435	
		(d)繰越額						
	A. 計(b+d)		35,030	33,329	23,275	55,618	37,921	
	B. 執行済額		33,749	30,871	21,253	37,958	34,754	
	うち交付金充当額		26,500	24,696	16,943	30,366	27,803	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		96.3%	92.6%	91.3%	68.2%	91.6%	
予算の状況の説明		予算減額4,435千円については、コミュニティバス運行业務の入札残を3月補正で減額した。不用額6,167千円については、各契約の精算によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	本格運行または廃止あるいは実証期間の延長を判断する。		目標 (実施)	(実施)	(本格運行等判断)	(本格運行等判断)		
達成状況説明		実績 実施 実施 実証期間延長 本格運行実施						
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの実証運行を実施した。 ・実証運行の調査として利用者アンケートを行った。 ・実証運行の報告として検討調査業務における報告書を作成した。 ・実証運行の報告及び評価検証の場として北谷町地域公共交通会議を開催した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	バス利用者に利便性・回遊性の向上が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実績		61.69%	85.50%	65.68%	
	地域公共交通会議にて、令和5年度からの本格運行または廃止あるいは実証期間の延長の合意を得るためのデータを収集する。		目標	()	()	収集	(収集)	()
			実績			収集	収集	
収支率25%以上を目指す。		目標	()	(25%)	(25%)	(25%)	()	
		実績		9.70%	5.20%	8.30%		
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの満足度については、①予約方法、②運行時間帯、③定時性、④運賃の項目ごとに集計しており、その平均値より算出している。区域運行に切り替えたことで、路線定期運行時の令和2年度と比較すると利用者の満足度は高まっているが、令和4年度が登録者アンケートを実施したため、満足度は減少する結果となっている。 ・収支率については、路線定期運行時より運賃収入は増加しているが、区域運行に切り替えたことで運行経費が増加しており、収支率は改善されず、目標値に達していない。 						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(利用者の満足度) ・70代以上の高齢者層で利用者の半数程度占めており、今後も変わらず利用したい、利用回数が増えると思うと回答の方が88%存在しており、高齢者にとって貴重な交通手段となっていることから、交通弱者等の生活の質の維持向上に効果がでている。 ・利用者満足度のうち、運行時間帯に対する満足度が58.9%と低い数値となっており、「もっと遅い時間まで運行してほしい」との回答が多く寄せられている。	(利用者の満足度) ・新たな予約方法の導入などを検討し、満足度の維持・向上を図る。
	(収支率) ・区域運行へ切り替えたことに伴い、運行業務に加え予約受付業務、配車システム導入保守等の経費が増加し、収支率の悪化の要因となっている。	(収支率) ・車両のダウンサイジングや委託方法の検討など経費の削減や、新たな収入の検討(車両広告やバス停オーナー制度の導入)、また、運賃の改定等を検討し、収支率の改善を図る。
今後の取り組み方針		
令和5年10月から条件付き本格運行に移行し、車両のダウンサイジング化、新たな収入の確保、運賃の改定、Web予約の導入、リーフレットのリニューアルを行い、利用促進に取り組む。		

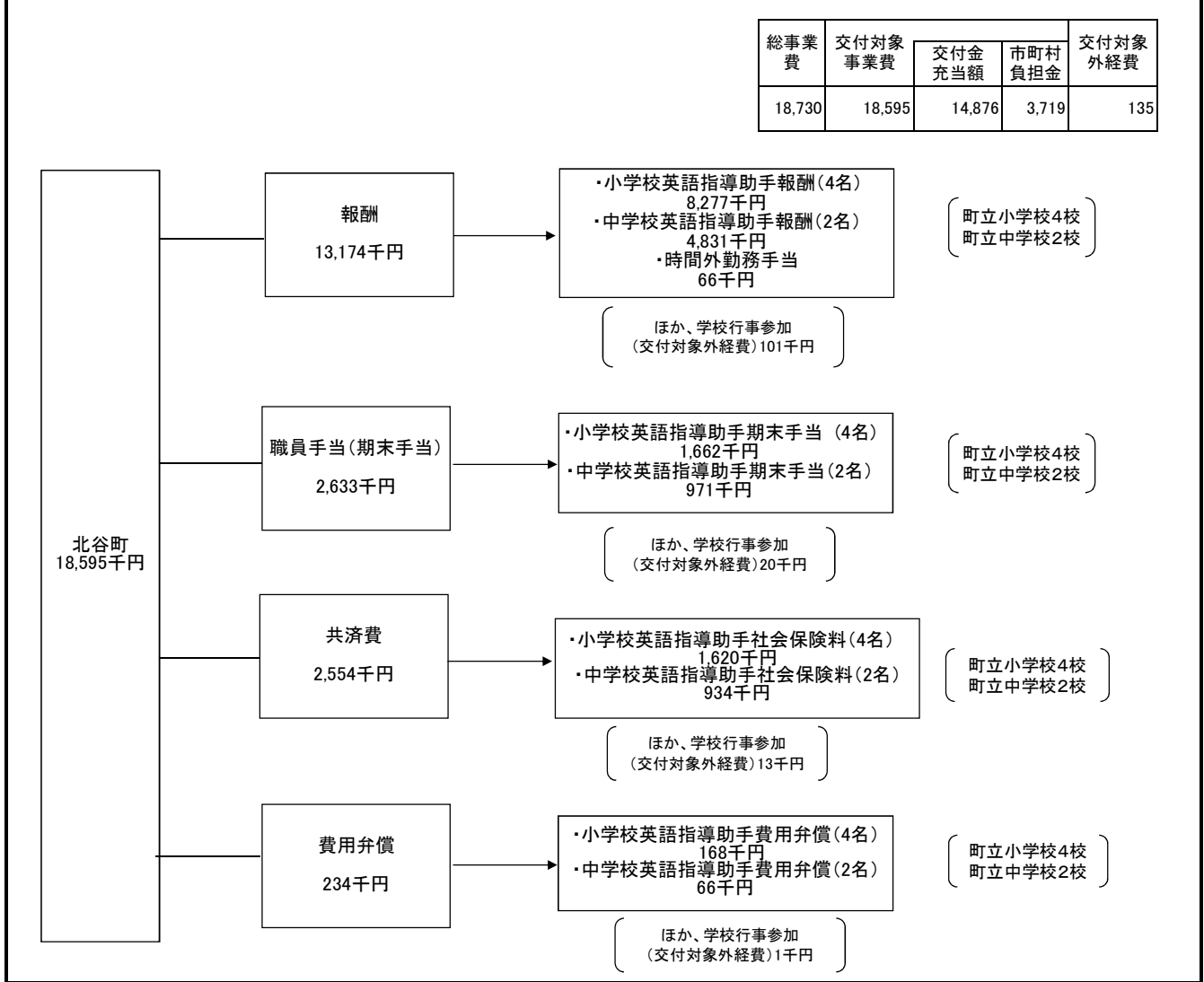


資金の流 れ、費 用・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約については、見積り合わせや入札による事業者選定を行っており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である利用者から運賃を徴収しており、事業内容から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	北谷町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	英語指導助手派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	国際化に対応し、産業振興・観光振興に貢献できる資質・能力を持つ人材を育成するため、各小中学校に1名ずつの英語指導助手(AET)を派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額	13,900	14,780	19,097	20,501	19,330	
	(b) 予算現額	14,634	14,780	18,135	20,501	18,664	
	(c) 増減額(b-a)	734	0	-962	0	-666	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	14,634	14,780	18,135	20,501	18,664	
	B. 執行済額	14,129	13,903	17,732	19,091	18,595	
	うち交付金充当額	11,000	11,122	14,185	15,272	14,876	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	96.5%	94.1%	97.8%	93.1%	99.6%	
予算の状況	予算の状況の説明 ・当初予定していた事業内容について、適正に執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	小学校4名(各校1名、幼稚園兼務)	目標	(AET配置数 4名)	(AET配置数 4名)	(AET配置数 4名)	(AET配置数 4名)	
		実績	AET配置数4名	AET配置数4名	AET配置数4名	AET配置数4名	
	中学校2名(各校1名)	目標	(AET配置数 2名)	(AET配置数 2名)	(AET配置数 2名)	(AET配置数 2名)	
		実績	AET配置数2名	AET配置数2名	AET配置数2名	AET配置数2名	
達成状況説明	【幼稚園】小学校英語指導助手を町立の幼稚園にも兼務として4名派遣することができた。 【小学校】町立4小学校に1名ずつ、計4名の英語指導助手を配置することができた。 【中学校】町立2中学校に1名ずつ、計2名の英語指導助手を配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	小学校:児童の英語への興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		84.3%	82.3%	81.0%	
	中学校:沖縄県学力到達度調査において英語の県と本町の平均正答率の差1.9ポイント以上	目標	()	(Δ0.5ポイント以上)	(0.4ポイント以上)	(1.9ポイント以上)	()
		実績		4.2ポイント	Δ0.8ポイント	1.5ポイント	
進捗状況説明	【小学校】 ・英語に関するアンケートの設問において、「英語の授業は好きですか」「聞くことは楽しいか」「話すときは楽しいか」「もっと英語を読めるようになりたいか」「もっと英語を書けるようになりたいか」の5つの興味関心に関する質問に対し、肯定的な回答をした児童(1～6年生)の割合は81.0%と前年度をやや下回ったものの、目標値の80%を上回っている。 【中学校】 ・R4県到達度調査の結果において、目標を下回ってはいるものの県平均より1.5ポイント上回る事ができた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	【小学校】 ・R4は英語専科教諭が配置されなかったため、英語の主たる授業者は学級担任だけとなった。教員間で英語の授業の得手不得手があり、授業力にも差があることから、授業を進める上で英語指導助手の比重が高い学級が多くみられる。連携のための打ち合わせの時間確保だけでなく、一般教諭の英語の授業力の向上が継続的な課題である。	【小学校】 ・授業以外でも児童と積極的にコミュニケーションをとることを推奨していく。 ・一般教諭が主たる授業者として効果的に英語指導助手を活用して英語の授業ができるよう、研修を実施する。
	【中学校】 ・町の平均正答率は県平均を上回ったものの、学校間の差が大きかったことが目標に達しなかった一因であると考え。どの領域に課題があるのかを学校毎に分析し、指導計画や配置計画に反映させる必要がある。 ・小学校と違い全ての英語の授業に入ることができないため、指導内容に応じた効果的な活用が求められる。	【中学校】 ・指導計画をもとに、年間を見通しての英語指導助手の効果的な配置について各学校で再検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
【小学校】 ・児童が日常的に英語にふれる機会を多くすることが、英語への興味関心をさらに高めることに繋がると考え、英語指導助手が授業以外でも児童と積極的にコミュニケーションをとるよう継続して指導していく。 ・一般教諭は主たる授業者として効果的に英語指導助手を活用して英語の授業ができるよう、合同での研修を継続して実施していく。		
【中学校】 ・英語科の年間指導計画を基に、年間を見通した英語指導助手の配置計画についての見直しを各学校で行い、効果的な活用につなげていく。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

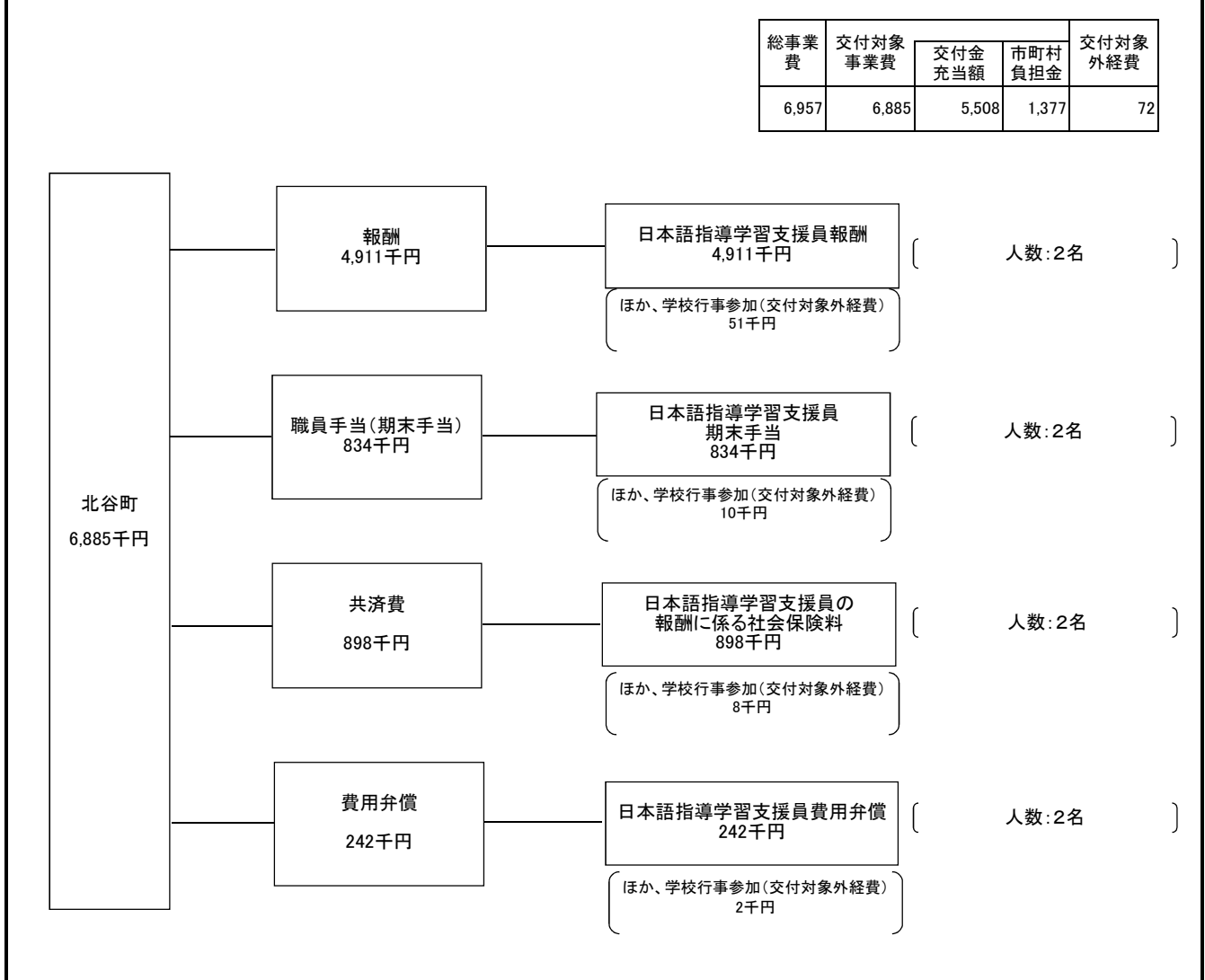


資金の流 れ、 点 検 ・ 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○北谷町会計年度任用職員の任用及び配置等に関する要綱に基づき、英語指導助手の業務に適すると認められる者を任用しており、支出先の選定は妥当である。 ○北谷町会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。 ○費用、用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	日本語指導学習支援員派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア		
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	日本語による会話能力の向上を図るため、日本語指導学習支援員を学校に配置し、日本語が十分に理解できない外国籍児童や帰国児童等へ学習支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額		3,222	3,803	4,047	8,015	
	(b) 予算現額		3,222	3,805	4,047	6,954	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	2	0	-1,061	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	0	3,222	3,805	4,047	6,954	
	B. 執行済額		3,140	3,733	3,956	6,885	
	うち交付金充当額		2,511	2,986	3,164	5,508	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	97.5%	98.1%	97.8%	99.0%	
予算の状況の説明	・当初予定していた事業内容について、適正に執行した。 ・新規任用者の報酬額決定により、報酬や共済費等を減額した。(第4回変更申請で減額)						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	日本語指導学習支援員配置:2名		目標 (配置数1名)	(配置数1名)	(配置数1名)	(配置数2名)	
			実績	配置数1名	配置数1名	配置数2名	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	○日本語指導学習支援員を2名委嘱し、町立学校4校に配置した。 ○対象児童生徒の日本語習得状況に応じて、1名あたり週2時間～12時間の指導を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	日本語の会話で意思疎通ができ、学校生活等への困難が改善された割合80%以上。		目標 ()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
			実績	91.7%	81.7%	78.5%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	・北谷小学校と北玉小学校を拠点に、北谷中学校、桑江中学校でも日本語指導が必要な生徒に対し指導を行った。 ・日本語指導教室に通級する児童生徒一人一人の日本語および教科の学習の習得状況を把握し、個に応じた指導を行うだけでなく、日本の生活習慣に適応するための指導や不安に対する心のケアも実施した。このことにより、教師や児童生徒との日本語による意思疎通が徐々にできるようになり、当該児童生徒の学校生活における困り感が解消されてきている。 ・成果目標に対して実績が若干下回っているが、その一因として日本語初級レベルの児童生徒の増加が考えられる。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 日本語指導を必要とする児童生徒がまだ増加傾向であり、中でも日本語初級レベルの児童生徒数も多い。R4の前半はコロナ禍もあり、初級レベル担当を位置付けたものの、指導の時間の確保が十分にできなかった。これらが成果目標に僅かに届かなかった要因であると考え。 日本語でのコミュニケーションが不得手な保護者も増えてきており、学級担任と保護者の情報伝達が困難な時、担任に代わって保護者と連絡をとる役割を担う機会が多くなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語初級レベルの児童生徒が、早期に日本の生活習慣や学校、学級に慣れるような指導体制を構築する。 日本語教育に関する研修の受講を奨励し、受講者には指導員への伝達講習を行ってもらい、波及に努める。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 初級レベルの児童生徒の指導強化のため、県加配教諭と連携して小学校1校に「日本語初期集中指導教室(仮称)」を設置し、3か月を目安として集中的に日本語指導を受けられる体制の構築を目指す。 上記指導体制が継続できるよう町雇用の日本語指導員の研修受講を奨励するだけでなく、町内での情報交換や研修の機会を充実させる。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

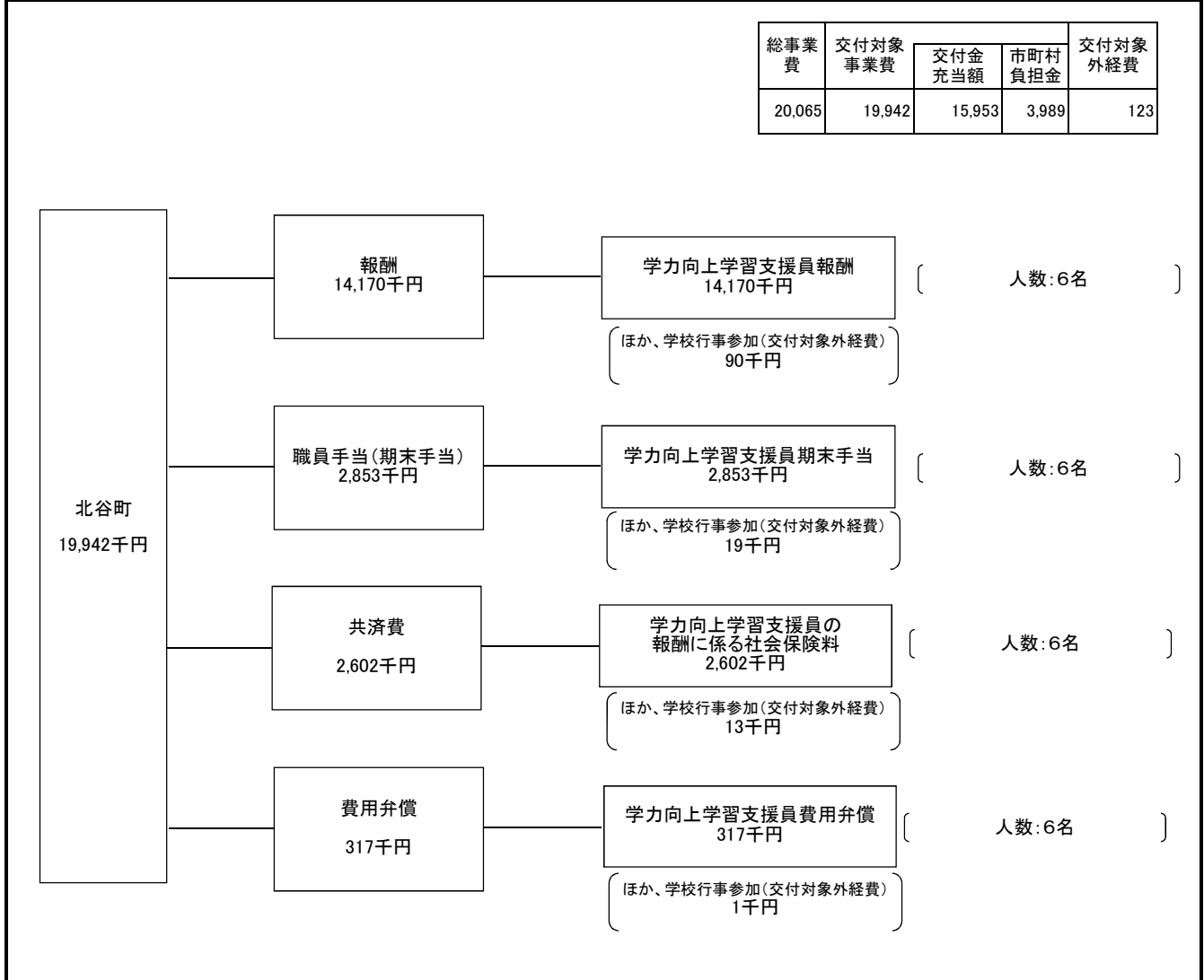


資金の流 れ、点 検、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 北谷町会計年度任用職員の任用及び配置等に関する要綱に基づき、英語指導助手の業務に適すると認められる者を任用しており、支出先の選定は妥当である。 北谷町会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。 費用、用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	学力向上学習支援員派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア		
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成26～令和13年年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	学習に後れを取っている児童生徒に対して、授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を配置し、自ら学ぶ意欲を高め、基礎的、基本的な学習内容を理解させることで、学習環境の充実を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,462	16,960	19,404	20,881	20,806
		(b) 予算現額	15,868	16,960	19,332	20,881	20,107
		(c) 増減額(b-a)	-594	0	-72	0	-699
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		15,868	16,960	19,332	20,881	20,107
	B. 執行済額		15,083	16,095	19,040	20,284	19,942
	うち交付金充当額		12,000	12,875	15,232	16,226	15,953
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.1%	94.9%	98.5%	97.1%	99.2%
予算の状況の説明		・当初予定していた事業内容について、適正に執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	小学校4名(各校1名)	目標	(配置数4名)	(配置数4名)	(配置数4名)	(配置数4名)	
		実績	配置数4名	配置数4名	配置数4名	配置数4名	
	中学校2名(各校1名)	目標	(配置数2名)	(配置数2名)	(配置数2名)	(配置数2名)	
		実績	配置数2名	配置数2名	配置数2名	配置数2名	
達成状況説明	・町立小中学校に1名ずつ、計6名配置できた。 ・諸学力調査において中学校数学に課題があるため、小学校では算数科、中学校では数学科の授業において、チームティーチングの授業形態で、教師と協力しながら児童生徒への助言および、理解が不十分な児童生徒を支援し、個に応じたきめ細かな指導の援助を行った。 ・各学校で放課後や長期休業において、個別指導を含めた計画的な補習指導にも活用するだけでなく、学習プリントや教具の作成などにも携わった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町の平均正答率の差 小学校 0.8ポイント以上	目標	()	(Δ0.4ポイント以上)	(0.3ポイント以上)	(0.8ポイント以上)	()
		実績	/	1.6ポイント	0.7ポイント	Δ2.6ポイント	/
	沖縄県学力到達度調査において、県と本町の平均正答率の差 中学校 Δ0.4ポイント以上	目標	()	(Δ1.0ポイント以上)	(Δ0.6ポイント以上)	(Δ0.4ポイント以上)	()
		実績	/	Δ0.4ポイント	Δ2.7ポイント	Δ5.0ポイント	/
	進捗状況説明	・学力向上学習支援員が配置されたことで、授業においてより個に応じた指導を行うことができるだけでなく、学習プリントや教具の作成にも携わることで、授業や学習支援に繋がっている。 ・県到達度調査において、県平均に対し小学校は-2.6ポイント、中学校は-5.0ポイントと設定した目標を下回る結果となった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年の学習内容の未定着が、小学校高学年、中学校での学習に影響が出ていることが調査結果や学習支援員への聞き取りからわかる。 ・諸学力調査の結果分析を教師が十分に行い、それに基づいた配置計画及び教師の指示が、学力向上学習支援員を活用していくうえで重要である。 ・学力向上学習支援員は、各単元で落ち込んでいる項目を把握し、児童生徒の学習意欲を喚起する視点での教材・教具の作成を行う必要がある。 ・小学校においても中学校への学びの繋ぎを見据えた指導の在り方が必要である。 ・学力向上学習支援員も学習指導要領及び町の教育施策を踏まえた指導の在り方を念頭に置き、支援に当たる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、これまで高学年への支援が中心だったが、低学年への支援を充実させていく。 ・学力向上学習支援員の連絡会を年3回開催しているが、諸学力調査の結果に基づく課題の把握や情報交換にとどまらず、小学校低学年の段階でのつまづきに対し、どのような支援を行うのが効果的かなどを協議する場になってきている。 ・効果的な支援は児童生徒とのよりよい人間関係の構築が必要との観点から、教員と同様の研修(人間関係づくり、生徒指導等)を受講する必要がある。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・年3回(4月、7月、12月)町学力向上学習支援員研修会を実施しているが、その際、町の施策や児童生徒の課題について理解を深めさせ、支援者、授業者そして児童生徒の三者の視点を踏まえて授業に携わっていく意識をもたせる。 ・現在の取組を継続しつつ、業務を遂行するに当たり、県の施策である「魅力ある学校づくり」の趣旨を踏まえた児童生徒への対応を常に意識させるようにする。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 用途の 流れ 点検 評価 ・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○北谷町会計年度任用職員の任用及び配置等に関する要綱に基づき、英語指導助手の業務に適すると認められる者を任用しており、支出先の選定は妥当である。 ○北谷町会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。 ○費用、用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

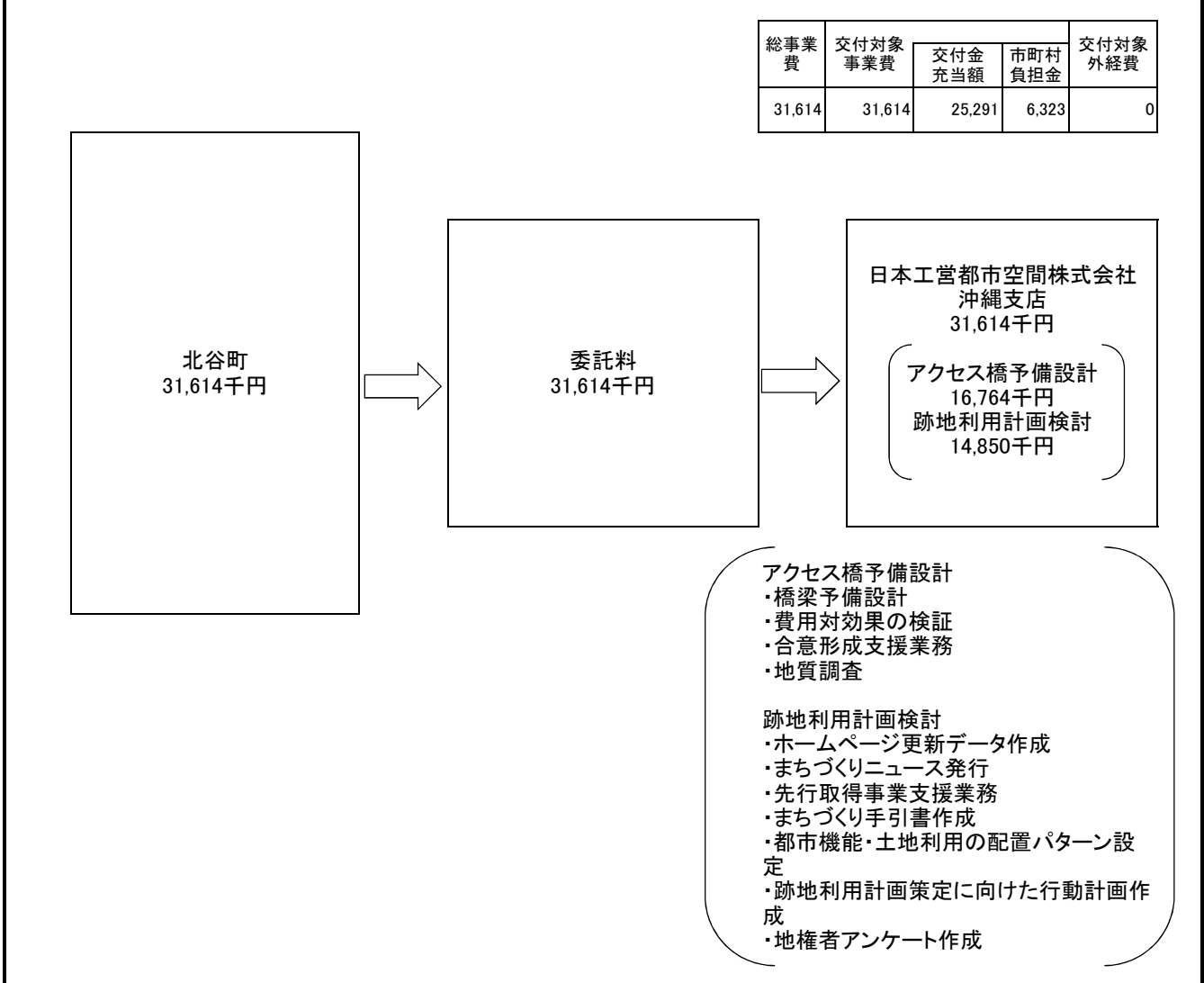
市町村名		北谷町					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	跡地利用推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-ア	
担当部署	総務部 企画財政課	事業実施(予定)年度	平成24~令和7年度	沖縄振興基本方針 該当箇所		駐留軍用地跡地の特性を生かした効果的な跡地利用の推進 Ⅲ-8	
事業内容	今後返還が予定される駐留軍用地の有効かつ適切な跡地利用計画策定に向けた跡地利用推進調査及び地権者に対する説明会等を実施する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和9年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a)当初予算額	17,090	15,679	23,265	19,657	43,472
	(b)予算現額	15,001	15,679	10,000	19,657	32,907	
	(c)増減額(b-a)	-2,089	0	-13,265	0	-10,565	
	(d)繰越額						
	A.計(b+d)	15,001	15,679	10,000	19,657	32,907	
	B.執行済額	15001	13860	4693	18,150	31,614	
	うち交付金充当額	12000	11088	3754	14,520	25,291	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	88.4%	46.9%	92.3%	96.1%	
予算の状況の説明	予算現額10,565千円について、アクセス橋予備設計において当初は2橋を予定、予算計上するも、契約では1橋分となったため、3月補正で減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	キャンプ桑江南側地区:地権者への継続的な情報提供	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
	キャンプ瑞慶覧倉庫地区:アクセス橋整備に係る予備設計	目標	()	()	()	(実施)	
実績					実施		
キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区:都市機能・土地利用の配置パターン検討、まちづくり手引書作成、跡地利用計画に向けた工程表作成、地権者意向調査	目標	()	()	()	(実施)		
	実績				実施		
達成状況説明	(キャンプ桑江南側地区) ・先行取得事業における実績報告などを「まちづくりニュース」として地権者へ情報提供を行った。 (キャンプ瑞慶覧倉庫地区) ・アクセス橋整備に係る予備設計を行った。 (キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区) ・都市機能・土地利用の配置パターン及び事業シュミレーション検討、まちづくり手引書作成、跡地利用計画策定に向けた行動計画作成、地権者意向調査を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(9年度)
	(キャンプ瑞慶覧倉庫地区)アクセス橋整備に係る予備設計の完了	目標	()	()	()	(完了)	()
		実績				完了	
	(キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区)調査報告書の作成	目標	()	(完了)	(完了)	(完了)	(80%)
		実績		未実施	完了	完了	
	(桑江第一タンクファーム地区)調査報告書の作成	目標	()	(完了)	(完了)	(完了)	(80%)
		実績		未実施	完了	未実施	
	(キャンプ瑞慶覧桑江南側地区)調査報告書の作成	目標	()	(完了)	(完了)	(完了)	(80%)
		実績		未実施	未実施	未実施	
	進捗状況説明	(キャンプ瑞慶覧倉庫地区) ・橋梁予備設計として、現地踏査(現地課題の整理)、設計条件の設定(道路、河川、地質、橋梁条件)、橋長の決定、横断す計画の設定、側方移動対策の検討、基礎工形式比較検討、橋梁形式の選定比較、施工計画の検討を行った。 ・費用対効果の検証として、発生集中交通量の算定、発生交通量の方向別割振り、費用対効果の算出、橋梁設置により期待される効果、検討課題の整理を行った。 ・地元合意形成として、河川の周辺住民である宇地区及び北玉区にて説明会を実施した。内容については、橋梁位置、関連事業(白比川河川改修工事、国道58号拡幅、キャンプ瑞慶覧施設技術部地区内の倉庫地区の一部等における平坦地部分での文化財調査、支障除去作業、跡地利用等)の説明を行った。 ・地質調査として、標準貫入試験、孔内水平載荷試験、室内地質試験、地質定数の設定、推定土層断面図の作成、磁気探査等を行った。 (キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区) ・都市機能・土地利用の配置パターン及び事業シュミレーション検討、まちづくり手引書作成、跡地利用計画策定に向けた行動計画作成、地権者意向調査を行い、報告書を作成した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区) 地権者アンケート調査の結果、地権者の意向として、自己利用、賃借、売却がそれぞれ一定数存在しており、また、半数以上がわからないとの回答であったため、地権者との合意形成が課題である。	(キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区) 令和3~4年度の跡地利用の検討結果を踏まえ、引き続き地権者との協議、説明会を行い、当該地区の有効な跡地利用の促進を図る。

今後の取り組み方針

(キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区)
 ・本地区の代表者と意見交換、地権者全体への説明会を行い、地権者の意向とまちづくり計画の内容の整合が図られるよう、合意形成を図る。
 ・関係機関協議にて、基盤整備、環境整備における課題解決について協議を実施する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札で選定されており、選定方法は妥当であったと考える。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費目、用途については業務完了後に検査を実施しており、目的に即し適正なものであったと判断した
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	里海プロジェクト事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(2)		
担当部署名	教育部 文化課	事業実施(予定)年度	令和3年度～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	自然環境の保全・再生・継承及び持続可能な利用 Ⅲ-10-(1)		
事業内容	本町に残された自然の保全活用を図るため、本町の沿岸河川及び緑地に生息する生物の全体把握を行う。 R4年度は里海プロジェクトで明らかになったことを展示公開等を行い豊かな自然を広くPRするとともに、海と河川の連続性に着目し、河川に生息する生物の全体把握を行った。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和7年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	16,995	7,942			
		(b)予算現額	16,995	7,920			
		(c)増減額(b-a)	0	▲22	0	0	0
		(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)		16,995	7,920	0	0	0
	B. 執行済額		16,775	7,920			
	うち交付金充当額		13,420	6,336			
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		98.7%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		・当初予定していた事業内容について、適正に執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	北谷町沿岸環境保全利用調査報告書の作成	目標	北谷町沿岸環境(保全利用調査報告書の作成)	()	()	()	()
		実績	完了				
	北谷町沿岸河川環境保全利用調査報告書の作成	目標	()	北谷町沿岸河川環境保全利用調査報告書の作成	()	()	()
		実績		完了			
達成状況説明	北谷町沿岸河川環境保全利用調査報告書を作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(R7年度)
	北谷町沿岸環境保全利用調査報告書の作成の完了	目標	()	(完了)	()	()	()
		実績		完了			
	北谷町沿岸河川環境保全利用調査報告書の作成完了	目標	()	()	(完了)	()	()
		実績			完了		
	【R7年度成果目標】		目標	()	()	()	(80%)
パネル展示等により、保全意識が高まったか。(アンケートで「保全意識が高まった」と答えた割合)		実績					
進捗状況説明	当初の予定通り北谷町の河川調査を終え、報告書の作成を完了した。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	沿岸河川域の保全活用するための基礎情報を得るための調査を円滑に整備することができた。 昨年度行った調査結果を元に企画展示を行い、多数の方に周知することができた。 しかし、アンケート調査の結果より、ある一定数の方が北谷の自然を知っていると回答したが、具体的な場所となると本来の自然が残された場所を回答した人は少ないことが分かった。 本事業は自然保全利用活用のための基礎情報であり、普及啓発活動やモニタリング調査を行うことによって効果を発揮することができる。よって今後の継続した事業活動が必要と考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・町民参加型調査(自然観察)等を通し、継続した普及啓発活動を行う必要があることがアンケート調査からも明らかになった。 ・建設予定の町立博物館において展示し活用するとともに、持続可能な地域資源を活かしたまちづくりの基礎情報として蓄積・活用する。 ・海との陸の繋がりを意識し、町全域の自然調査を順次行う必要がある。 ・環境の変化を捉えるためのモニタリングを行う必要がある。
	今後の取り組み方針	
<p>【調査・研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸域の生物調査を順次行う。 ・環境の変化を捉えるため5年もしくは10年後に再度調査を行う(モニタリング)。 <p>【普及啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を活用した企画展を開催する。 ・今後建設予定の町立博物館において展示する。 ・町民参加型調査(自然観察会)を行う。 <p>【効果測定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全意識の変化を捉えるためプロジェクト終了後にアンケート調査を行う。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
7,920	7,920	6,336	1,584	0

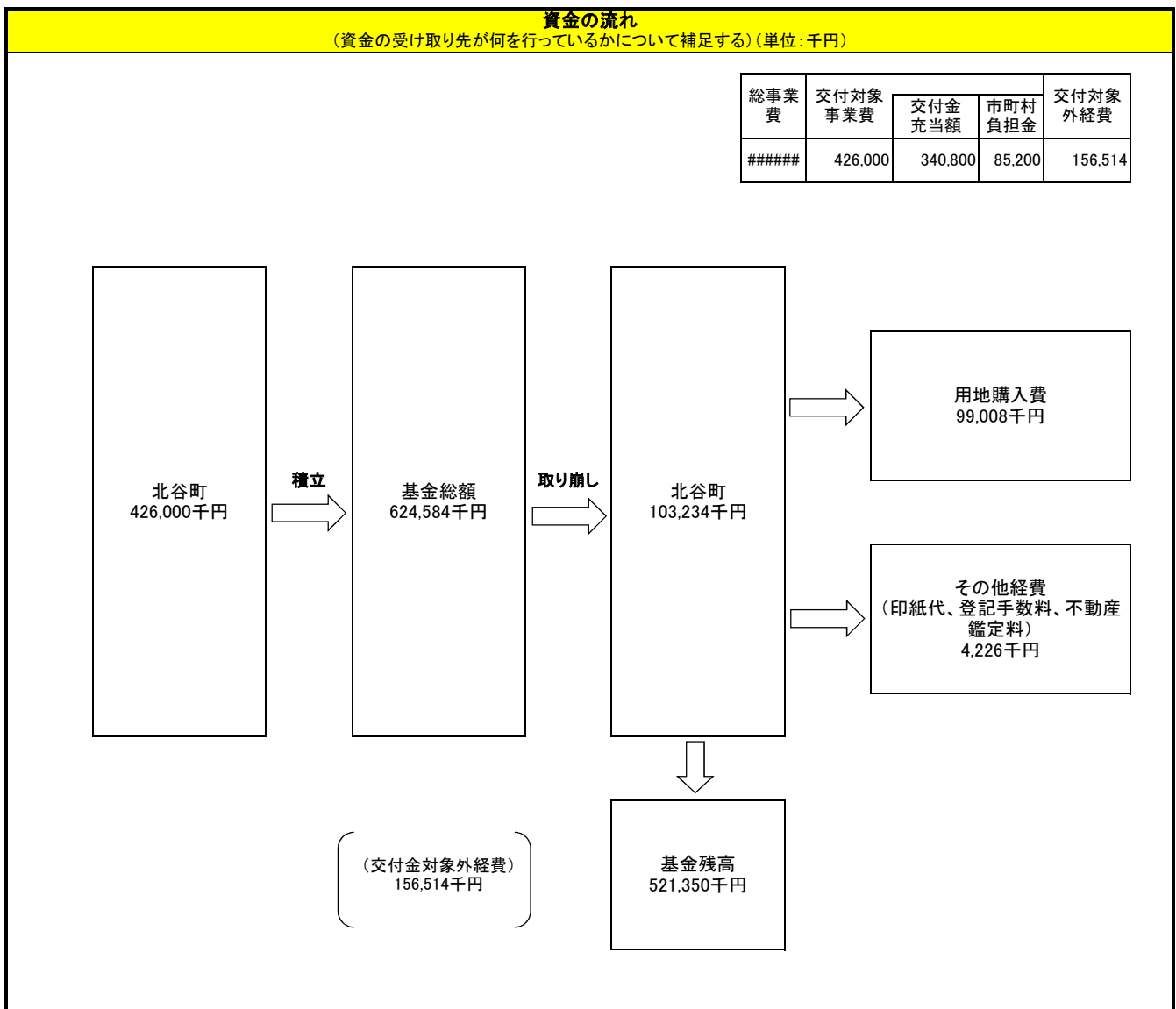
```

graph LR
    A[北谷町  
7,920千円] --> B[委託料  
7,920千円]
    B --> C["(一財)沖縄県環境科学センター  
7,920千円"]
    subgraph D [ ]
        B
        C
    end
    style D stroke-dasharray: 5 5
  
```

資金の 使途の 流れ 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○受託業者は調査実績のある業者を指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、入札残による事業費減額はあったが、適正な規模であった。 ○費目、使途は、事業目的に即し必要なものであった。
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	北谷町特定駐留軍用地内土地取得基金事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ		
担当部課名	総務部 企画財政課	事業実施(予定)年度	平成25～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進 Ⅲ-8		
事業内容	駐留軍用地跡地の有効かつ適切な跡地利用を推進するため、基金を活用して特定駐留軍用地内の土地の先行取得を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	400,000	143,829	31,584	51,655	280,000
		(b) 予算現額	700,000	143,829	194,785	51,655	426,000
		(c) 増減額(b-a)	300,000	0	163,201	0	146,000
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		700,000	143,829	194,785	51,655	426,000
	B. 執行済額		700,000	120,699	157,045	51,655	426,000
	うち交付金充当額		557,900	96,559	125,636	41,324	340,800
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	83.9%	80.6%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		地権者から買取り相談及び土地買取単価上昇により6月、9月補正にて増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	基金の積立	目標	(基金の積立)	(基金の積立)	(基金の積立)	(基金の積立)	
		実績	120,699千円	157,045千円	51,655千円	426,000千円	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	基金積立額については、426,000千円を積立した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(R7年度)
	特定事業の用に供する土地取得目標 1,360㎡(達成率87.2%)	目標	()	(91%)	(100%)	(87.2%)	()
		実績		91%	92%	87.2%	
		目標	()	()	()	()	(80%)
		実績					
	進捗状況説明	令和4年度の土地取得は1,360㎡となり、目標値を達成した。 ※令和4年度にて、新たな特定事業の見通しとして広場用地の取得開始に伴い、目標総取得面積が増加したことから、令和3年度から令和4年度にかけて達成率が減少となっている。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・当該地区での先行取得は令和4年度で9年目となり、売却意向の地権者の減少が考えられる。	昨年度に引続き戸別訪問を行う。
	今後の取り組み方針	
買取申出期間後に問い合わせあった地権者を中心に戸別訪問を行い、機会の損失を防ぐことで、目標面積の取得を目指す。		



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○基金積立事業であり、預入先などの選定は基金運用検討委員会にて適切に行っており、妥当であると考えている。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	